

議員全員協議会会議録

令和4年2月14日

宮 古 市 議 会

令和4年2月宮古市議会 議員全員協議会会議録目次

(2月14日)

議事日程	1
出席議員	2
欠席議員	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
説明事項(1)	3
閉 会	12

宮古市議会議員全員協議会会議録

日 時

令和4年2月14日（月曜日） 午後4時35分

場 所

市議会 議場

○

事 件

〔説明事項〕

（１）宮古市産業立市ビジョン実行計画について

出席議員（２０名）

1番	白	石	雅	一	君	3番	西	村	昭	二	君	
4番	畠	山		茂	君	5番	小	島	直	也	君	
6番	鳥	居		晋	君	8番	佐々	木	清	明	君	
9番	橋	本	久	夫	君	10番	伊	藤		清	君	
11番	佐々	木	重	勝	君	12番	高	橋	秀	正	君	
13番	坂	本	悦	夫	君	14番	竹	花	邦	彦	君	
15番	長	門	孝	則	君	16番	落	合	久	三	君	
17番	松	本	尚	美	君	18番	加	藤	俊	郎	君	
19番	藤	原	光	昭	君	20番	田	中		尚	君	
21番	工	藤	小	百	合	君	22番	古	舘	章	秀	君

欠席議員（１名）

2番 木 村 誠 君

説明のための出席者

説明事項（１）

産業振興部長	伊 藤 重 行 君	産業支援 センター所長	岩 間 健 君
観光課長	前 田 正 浩 君	港湾振興課長	小 成 勝 則 君
農林課長	飛 澤 寛 一 君	水産課長	佐々木勝利君
商業労政係長	野 頭 正 樹 君		

議会事務局出席者

事務局長	下島野 悟	次 長	前 川 克 寿
主 任	佐々木 健 太		

開 会

午後4時35分 開会

○議長（古舘章秀君） 本会議大変ご苦勞さまでした。ただいまから議員全員協議会を開会します。ただいままでの出席は20名でございます。会議は成立しております。本日の案件は説明事項1件となります。

○

説明事項（１） 宮古市産業立市ビジョン実行計画について

○議長（古舘章秀君） 宮古市産業立市ビジョンに関する説明は、これまでも議員全員協議会で扱ってきました経緯を踏まえまして、所管の委員長とも協議し、議員全員協議会の場で説明を受けることといたしました。それでは説明事項の1、宮古市産業立市ビジョン実行計画案について説明願います。伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） それでは宮古市産業立市ビジョン実行計画案につきましてご説明をいたします。本来であれば、令和元年度に策定をするという計画でございましたけれども、1回目の策定委員会開催後に、台風19号災害、そして第4の災害というべきこの新型コロナウイルス感染症被害により、その対策を優先したことから、残念ながらこの2年先延ばしをされていたというものでございます。今年度、5回にわたる策定委員会を開催いたしまして、各分野別の策定委員会の代表者、及び学識経験者とともに議論を重ねてまいりました。今般、実行計画案としてまとまりましたので、議会の皆様にもお示しをし、ご意見を賜りたいというふうに住じます。なお、2月8日からは今月いっぱいパブリックコメントも実施をしているところでございます。実行計画案の詳しい内容につきましては、岩間産業支援センター所長より説明いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

○議長（古舘章秀君） 岩間産業支援センター所長。

○産業支援センター所長（岩間健君） 私からご説明させていただきますが、着座にて。資料については本編資料と、あとはカラー刷りのA3のものを二つ折りにした資料がございます。あとちょっと分厚いのですが、本資料ということで、最初にこちらのほうの次第があるところでご説明させていただきます。表紙開いていただきます。宮古市産業立市ビジョンのこれまでの経過の振り返りも含めての資料とさせていただきます。1番目のビジョンの目的のところでございますが、産業立市ビジョンというのは平成21年5月に策定された宮古市川井村合併協議会による宮古市新市基本計画、及び当時の宮古市総合計画の考え方を踏まえながら、産業の将来像、実現を図っていくとするもので策定に着手したという経過がございました。大きな2番のビジョンの性格ですけども、各産業分野別、農業、林業、水産、商工、観光、港湾ということなんですけども、そちらとの整合を保ちつつ、本市の進むべき方向性という部分についての基本的な方針を示すものとしての策定を目指していたものでございます。具体的な施策は宮古市総合計画、及び予算計上により実施をしていくという基本でございました。またこのビジョンの積極的な支援協力を関係団体、県、国のほうに求めていくという性質のものと、あとは地元の企業、事業者、生産者の皆様に対しても、その協力を要請するという趣旨のビジョンというふうな意味合いを持って策定を目指してきたものでございます。大きな3番のこれまでの経過ですけども、平成23年から27年度までの5か年間の計画を策定途上で、平成23年3月11日に東日本大震災で被災したということから策定という手続まで至らなかったというのが、初期の取組でございました。そのあと（2）番、第1期として策定に至ったのが、平成28年から31年度までの4か年間の計画については策定になりまして、今回お示しするものの前の前計画という位置づけになります。当時策定途上で、平成27年6月の市議会の定例会一般質問で、当時の茂市敏之議員から、中小企業振興基本条例を策定すべきという提言等もいただきながら、山本

市長からは、産業立市ビジョン策定委員会でそれらについても検討していただくんだということを踏まえまして、当時の産業立市のビジョン策定委員会、当時4回開催されたようですが、その中で、委員であった商工会議所の花坂会頭から産業振興条例の制定についての提案がなされ、その年の年度末、議会のほうにお諮りしながら条例として制定され、28年4月1日に施行されたものでございます。次の2ページに産業振興条例の抜粋版を添付してございます。目的、基本理念、基本方針、市の役割、責務。第6条ですと事業者の役割及び責務。第7条ですと産業関係団体の役割及び責務。第9条で産業の振興に関する意見交換会の開催ということで、こういう条例が制定されたということが記憶にございますでしょうか。これらを踏まえまして、今回、特にその条例を意識しつつ新しい計画をつくろうということで、4番の第2期、残りが3か年間ということでの策定になりますけれども、委員会の開催をしていただきながら、今日の案をまとめたものでございます。今日の資料の3ページをお開きください。2ページは先ほどの条例の抜粋、3ページのほうが、平成31年4月からこの作業が実は始まっておりまして、その経過を一覧表にいたしました。令和元年の9月10日に第1回の策定委員会、当時開催をしつつ、着手したつもりでございましたが、先ほど部長のほうからもお話ししたとおり、台風19号災害からの復旧、新型コロナ対応を優先したということもありまして、策定作業そのものが延期されてきたという経過でございます。本年度に入って、7月、9月、11月、12月、そして1月に5回の策定委員会を開催して意見をいただきました。現在パブリックコメントを実施してございます。本日の市議会への説明ということでご覧いただきたいと思いますが、今年度内の計画策定を目指しております。こちらの分厚い冊子の78ページをご覧ください。78ページ、最後の2枚目になります。3か年にわたってでございましたので、策定委員会の委員についても、一部どうしてもご異動とされたという役職の方の部分については、後任の方が担っていただいたということで、こちらに記載の12名の方々に委員として議論、ご意見をいただいたということでこちらもつけてございましたので、お目通しいただきたいと思います。それでは戻らせていただいて、この分厚い資料の1、表紙の次の目次のところを見ていただきたいと思います。章立てのほうが第1章策定の趣旨から第4章までが本編資料ということで、21ページのボリュームとなってございます。下半分の資料編のところは、22ページから79ページまでということですからかなり分厚い資料でございますが、この中には産業振興条例、産業振興基金の条例、または前計画の実績評価の検証資料、また総合計画、令和2年3月に策定した宮古市総合計画の部分と、まちひとしごと創生総合戦略の産業分野の部分抜粋して添付してございました。また統計データについても添付してございますが、この総合計画とか、まちひとしごと創生総合戦略を抜粋することによって、他の冊子をご覧いただけてもこの1冊で、全ての産業分野のことをご覧いただけるというような構成になりましたので、資料編が分厚くなってございました。次に7ページをお開きください。特徴的なところをご紹介します。7ページが第3章、これがこのビジョンの1番重要なところとおもっておりますが、リーディングプロジェクトについて、この7ページから記載してございます。なおエネルギーの関係のビジョンについては今年度、同時並行でエネルギービジョンの次の推進計画というのが策定予定で進んでいるということで、こちらについてはかなり専門的なビジョンということもあろうかと思ひまして、そちらのほうと連動していくというところを、ここのページの後段のほうで記載をしてございました。8ページをお開きいただきます。このビジョンの構成、どういう組立てになったかというのをちょっと1例を話していきたいと思いますが、8ページ、まず一つ目が生み出すプロジェクトということで、今回市長が申しました市の来年度の経営方針の中でもうみだす、うりこむ、はぐくむ、そなえる、ささえるというキーワードの中でうみだすプロジェクトについて、このページに記載がございます。プロジェクトのキーワードということでこの箱囲みでなじみの言葉

等々記載しておりますし、中段のところは現状の認識、そして今後の取組の方向性について記述をしております。そして1番下の箱囲みの中には、この分野においてプロジェクトとして立ち上げようと、位置づけようとするものを、箱囲みの中で事業名、施策名とプロジェクトの概要というのを記載してございます。同様に9ページは、うりこむプロジェクトに関してのキーワード、現状認識、方向性、そしてプロジェクト、10ページははぐくむプロジェクト、11ページがそなえるプロジェクト、12ページがささえるプロジェクトという構成にしてございました。これらの8ページから12ページまでの部分をまとめて市民の皆様、事業者向けにまとめたのがこちらのカラーのA3の2つ折りの資料の内側のほうの左側になってございます。内側の左側にリーディングプロジェクト、16のリーディングプロジェクトということで、先ほどの8ページから12ページまでのものをまとめたものがこの一覧表でございます。うみだす、うりこむ、はぐくむ、そなえる、ささえるということで、それぞれのプロジェクト施策名とプロジェクトの主な概要ということでまとめたものでございます。またその関連の中で、各政策分野別ビジョン、紙の右側になるんですが、農業から港湾までということで、各ビジョンのほうで総合計画を基本としつつも、特に力を入れたい事業ということで、こちらを抽出、特出したものが、各分野別ビジョンの中で二つないし三つ四つ、五つと、抽出といいますか、力を入れたい分野をご議論いただいてきたところで、合計で27のコア・プロジェクトという位置づけになっております。予算の裏づけは総合計画に基づいての予算化、または今後、新規事業に取り組もうという部分については、また予算のほうの提案をさせていただく場面もあるかと思いますが、各分野別のビジョンは、各分野に特化した専門的な取組を期待するもの、そして左側の16のリーディングプロジェクトは、政策分野を横断したり、横で連携したりという意味合いのもので総括しようというものが左側でございます。縦で割って取り組む深いものと、あとは連携してやることによって効果が高まるもの、またはこれまでの取組がさらに厚くなり強くなるという意味で、この16のリーディングプロジェクトと27のコア・プロジェクトを位置づけようということでございます。このカラーの資料の一番表のほうを見ていただきまして、タイトルのところが実行計画概要版ということで地域経済を力強く活性化させるためにということで、総合計画を最上位計画とした産業立市ビジョンがあるという位置づけをこのページで表現してございました。ベースになるものは宮古市産業振興条例の目的基本理念、基本方針ということで記載しております。そしてこの今のページの中段より下のほうに、農業、林業、水産、商業、工業、観光、港湾のちょっと上のほうにたどって行って、ちょっと太字にございますが、地域経済活性化連携会議というものを設置するというのを今回初めて位置づけようと思っていました。これはビジョン3か年、または5か年という長期のものをこの時期に策定するわけなんですけど、このビジョン策定委員会の第1回、第2回の会議におきまして、自然災害であったり、コロナの影響を目の当たりにしながら、委員の皆さんも大変いろんな意見を、これまでと違う意見をお持ちだったというのがありまして、要は産業分野というのは状況が常に変わっていくので、一度つくったビジョンを固定化してそれでやっていくのではなくて、時々に見直す必要があるのではないかというご意見をちょうだいしたというのが発端でございました。そんな中で、次のビジョンの策定は、令和7年ということで3年後になる予定ではあるんですが、その間であっても、先ほどご覧いただきました12名の委員さんプラス、または特に力を入れる分野の関係団体の方々等を交えながら、策定委員会という形じゃなく、この連携会議ということで、年に数回ほど毎年集まって意見交換をしようという場をつくろうというのが今回の特徴でございます。次のビジョンに向かって毎年毎年事業を見ていただきながら、進捗を見ていただきながら業況の変化等に応じながらご意見を賜る。そういう場ができるということが、この産業振興条例の意見交換会のというこの場の位置づけになろうかということで、今回そのような位置づけを提案したと

ころ、ビジョンの策定委員の皆さんにはご了承いただいたところでございます。この裏側のほうが、みんなが描くってということで、ちょっとわかりやすく総合計画の柱もこう記載しながら、みんなが描く地域産業の将来像ということで記載をさせていただいておりました。これらは配布物として概要版としてお渡ししやすいようにつくりを意識してございました。そして次にもう一つだけご説明させていただきます。本編のほうの本編資料の13の1ページというのが折りたたんでございます。3枚、13の1、13の2、13の3というのを折りたたんでございまして、このビジョンを今後向こう3年間、どのように使っていくかというところを、この表に委ねたいということで提案をいたしました。開いていただきまして、先ほどご提示しました、うみだす、うりこむ等々の五つの柱のプロジェクトの施策をここに打ち込んでございますが、1番上の文章のほうをちょっと読ませていただきます。重点施策、リーディングプロジェクトの推進のために宮古市総合計画実施計画との整合性を図り、各事業の取組を進化させ、磨き上げ連動させながら、事業の継続拡充再編に取り組んでいくものであるということと、また新たに実施を目指す事業については具体的に検討や研究を進めていくということの位置づけで、策定して終わりではなく、今後検討していく方向性の項目についても記載をしてございました。この表の上の項目をご覧いただきたいと思います。左側から分野、施策名が先ほどお話しした施策ということで、①とすればメイドイン宮古ブランド創出プロジェクトということ、これが施策名になります。内容についてはそのメイドイン宮古のプロジェクト、どのような内容に取り組んでいくかというところがこの内容のところに記載をしてございました。またその右の項目に行って、新規継続強化ということで、これまでの取り組んできた事業も多々ございましたので、継続する、さらに強化する、新たに取る、その辺をこの辺で表記しておりました。その次の右側の項目が政策分野キーワードということで、先ほどの8ページから12ページまでのキーワードをここに当てはまるものをここに記載をしております。その右の項目ですけども、現在策定済みで、進行管理使っていますが、総合計画の実施計画の前期計画の主要事業が巻末のほうにあるんですが、それらの事業からこの①のメイドイン宮古ブランド創出プロジェクトに関連する主要事業ここで拾い上げてございましたし、本年度、昨年4月から取り組んでまいりました、令和3年度実施事業予算に関する説明資料の冊子から現に取り組んでいる事業をここで拾い上げてみました。そしてその右の項目は令和4年から6年度までに今後実施、検討、研究していくという部分の項目ですけども、この①については、既に取り組んでいる事業を継続または強化していく、連携していくという位置づけにしておりました。次にまたその右の項目は、総合計画の目標指標、あとは創生総合戦略のKPIという指標のところを、こちらに当てはめて進捗管理、または成果の評価をしたいということで、この冊子のページでいうと37ページ38ページですとか、49ページに一覧表としてその成果指標を添付してございますが、それを突合することによってこの部分を読み取ることができる。あと次のSDGsに関しましても、巻末のほうの資料編に記載ございますけども、このプロジェクトが目指す目標、SDGsが目指す目標のどれに当たるものかという部分を拾い上げたものが次の項目になります。そして、関係機関団体というところにちょっと記載をさせていただいたところが、行政が主体となる場合で協力いただきたい場合の関係団体等、または逆に、関係団体、関係機関が主体で取り組む場面もあるかと思いますが、その辺のところを、最大限ここで考えられる団体さん、関係機関を記載したところでございます。連携していくんだよということをここで表現しています。それで最後1番右側の市の行政組織としての担当部ということで、産業立市のビジョンではあるんですが、そのプロジェクトによりましては企画部、教育委員会、都市計画課、危機管理監等、他の部との連携が必要だということを、これを庁内でもお示しをしながら、今後取り組む上での連携の気持ち、体制をちょっと醸成しながら、力を入れていきたいというのがこの表の特徴に

なっています。次の2枚目、3枚目が同様の構成の中で取り組んでいこうという事業になってございます。例えば、この1番上の13の1ページの上から二つ目のうりこむプロジェクトが下半分あって、④番の宮古港観光海洋賑わい創出プロジェクトっていう部分なんですけども、これは遊覧船のほうも造船中でございますし、運航再開ということを準備しています。ただ、遊覧船だけの事業ではなくて、出崎地区の部分、あとはスポーツツーリズム、観光、体験観光、あとは藤原ふ頭、マリーナ、リアスハーバー等、様々同じように宮古港を取り巻く環境の中で、賑わい創出でたくさんの人に来ていただきたい、体験していただきたいというのは、個別事業がそれぞれ成り立てばいいのではないと思っていますし、それらが常実施する場合に連携していく、いろんな効果を高めていくための一つの重要なテーマではないかなというのがこの④番になります。また⑤番の地域商社・地域拠点パワーアッププロジェクトっていうのは、市としても第三セクターとして道の駅を複数持っていますので、そこにおいて、コロナ禍においてもECサイトを立ち上げたり、道路交通網、大変便利になった中で、いろいろな工夫とかチャレンジをしている道の駅、第三セクターの公社等、取組を投資しながらやっていく必要あるだろうなというのがこの⑤番となります。また次の13の2ページですと、実は策定委員会の中で一番力が入っていたのが人材育成。人材の確保、育成、定着というテーマが再三出されました。どの委員からも。ということもあってこのはぐくみの項目が多くなってございます。これが結果として非常に特徴的なビジョンになるのではないかなと思っています。⑦から⑪までが人材というテーマでははぐくむところがベースで産業振興が図られるんだということのご意見を多々いただきましたので、上から第一次産業、今も取り組んでいますけど第一次産業の担い手、水産高校の養殖課新設、あと商工観光、産業人材という意味では新規創業事業承継等、あとは産業教育のプロモーションという意味では、地元の産業どんなものがあるのかっていう部分がなかなかこの宮古を離れる前にわからないとかですね、その良さは伝え切れてないというご意見もたくさんございました。そしてふるさと産業人材ということで⑩番のところは雇用対策協議会と連携してもうちょっとふるさとに帰ってこられる人材、またはU・Iターンも含め、それらの取組をもっと力を入れてほしいというご意見がたくさんございましたし、シルバーだけじゃなくてシニア、シルバー、そして外国人雇用、障害者雇用というテーマ、これも結構皆さんから出されまして、生きがいを持ってやりがいを持って、そしてそういう雇用を求めている企業さんも非常に多いことがわかりましたので、これらもそれぞればらばらに取り組むのではなくて、一緒に方向性を定めながら取り組んでいこうという人材育成を旨とした、はぐくむというテーマになります。あとその次のそなえるという部分はBCPというテーマでございますし、最後の13の3ページについては、宮古地域振興センター事務局を持っていますが、宮古・下閉伊モノづくりネットワーク、食産業のメールマガジン等を出したり、いろいろこう発信している部分もちょっと強化して協力していきたいなというような考え方を持って取り組んでいく指針となるビジョンになればということで、ここまで作業を進めてまいりました。説明はちょっとかなり飛び飛びで割愛した部分もあるものではあるんですが、事前にちょっとお届けをさせていただいた部分でございますし、今後まだパブリックコメントの期間中でもございますので、いろいろとご意見を賜りながら、これがスタートだというビジョンにしたいという思いがありましたので、ご意見を賜りたいなということで、私からの説明は一旦終わらせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（古舘章秀君） 説明が終わりました。この件について何か質問があれば挙手願います。田中尚君。

○20番（田中尚君） 座っていいですか。市長の重点公約でもあります産業立市の具体化に踏み出すためのすね、いわば力点といいますか、説明をいただいたという思いであります。まずそこで一つ。第1に伺いた

いことは、従来の行政の施策を立ち上げる際のプロセスは、いわゆるビジョン、そして実施計画、ビジョンがあつて基本構想があつて基本計画があつて実施計画と。今回の実行計画っていう言葉がですね、あえて強調されているように思いますし、その影響で総務常任委員会のほうでも、松本委員長を先頭に実行計画っていう言葉が使われているんですが、これはどういうふうに理解したらいいのか。今後市においては、まずビジョンがあつて、そして基本計画があつて次は実行計画ですよ。つまり従来の実施計画に当たりますよってそういう理解でいいのかなどかですね、ちょっとあの要望についての正確な理解を交通整理も含めてお願いしたいと思います。

○議長（古舘章秀君） 岩間産業支援センター所長。

○産業支援センター所長（岩間健君） お答えします。最上位計画を宮古市総合計画としてございます。こちらが言わばビジョンに近いものではないかなということで、同じようなものをつくるのではなくて、この産業立市のビジョンと言いながらも、実施計画に近いもので、やはり取り組んでいくものを明記しなければ、ビジョンを複数持ってもどうかなという思いもございまして、少し踏み込んだ計画を基本として考えました。ちょっとうまくこの名称としてこうきれいに整理されているかって言いますと、平成23年の策定に至らなかった時期のことがあつて、そのときの思いも酌みつつ、でも産業振興条例というベースがあつて、その各条項の役割分担を明記することによって、実施計画に近づくのではないかなという意味合いで実行計画という名前をつけさせていただきました。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○20番（田中尚君） この表題見るとわかりますように、つまりビジョンと実行計画が併記されているわけですね。だから私はちょっと違和感を持ったんですね。つまり従来のビジョン、言葉をかえますと基本構想等々で私たちは従来こう行政の政策が形になるまでのプロセスを理解していたつもりですから、今回は言わばそのビジョンをさらに具体化に向けた従来の実施計画に近い形として、実行計画をつくったというふうにも説明聞くんですが、だったらですよ、宮古市産業立市実行計画というふうにしたほうが、何かこうすっきりするのかな。呼び名も含めてちょっと細かいことですけども、次に私が感じたことは、やっぱり市長はいずれ産業立市が要だと。自分の2大重点公約だということを言っておりますけれども、ここに来て、今その人口減少が非常に大きな特徴として、ある意味地域の経済にこれも今はコロナが若干困難な条件を与えておりますけれども、他方においてはこの人口減少に歯止めがかからなくなると、もっと大変なことになるというふうな思いで言っております。それはどういうことかという、いわゆるストロー現象が予想されると。もう仙台も近い、盛岡も近い、そういう中で、一つはやっぱりそういうストロー現象の状況が整いつつあるという中でどうするかという点では、岩間課長からこの計画に盛り込まれた力点も含めてご説明をいただいた思いであります。ただ大変申し訳ないことに、依然としてやっぱり検討の域を出てこないっていうのは読んだ感じの私の受け止めです。何をいつまでにどういうことをやろうとしているのかね。そういう部分になると、やっぱり調査が必要、検討っていうことが、もうオンパレードって言ったらちょっと怒られるかもしれませんが、そういう印象がしました。そこで私のほうのちょっと疑問点なんです、確認したい部分。出崎の振興を図ると言いますが、出崎地区の最大のネックは、あそこの道路、交通渋滞するってことがありましたよね。つまり旧宮古市の庁舎から真っすぐ行くと出崎に行くわけでありまして、この道路が半端なく混んだ時期があるわけですね。出崎でやったときに終わって帰るときに、渋滞の解消は依然として私は実現してないというのが私の認識なんです。ですから私は、盛岡宮古横断道路を考えるのであれば藤原だろうと。県有地でありますけれども、あ

そこのほうがよっぽど宮古の活性化の核にもなるんじゃないか。なんであんな狭い出崎をさらに埋立てをして、そこに新しい産業をつくる。一つの宮古市の経済を元気にするための重要な地区ということで、様々なクルーズだ、いろいろ言っておりますけれども、ちょっと私はそこはもしそれが可能になるとすると、交通渋滞が解消されていなければならないというのは私の理解なんです。もう二度と来るかっていう声も聞いたんですよ。通り抜けるまでに時間かかってね。そういう情報が入っていますか、皆さん方のところに。渋滞で抜けられない。かなり解消されたんであれば問題ないですけども、大分道路が整備されてますんで。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 恐らく魚市場使った毛ガニだとか、マダラのときの混雑、あとは去年の鉄ヶ崎の元気市の8,000人来たときのというようなイメージかと思いますけども、二度と来るかというような、厳しいご意見は私のところには届いていませんが、確かに渋滞であるという渋滞が起きたのもわかります。駐車場の確保であったり、迂回路というか、そういったところ、道は必要かと思います。だからといって、いやあ、出崎先端が交流拠点じゃないよっていう言い方は私にとってはちょっと乱暴かなというふうに思っています。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○20番（田中尚君） 部長から乱暴だというご指摘をいただきました。私もそういう思いもして、あえて発言した経過ありますので、それは取り消させていただきたいと思います。問題は宮古市の活性化に向けて、どういう宮古の持っている有利な資源なり、この交通アクセスを生かすか。そうなったときにどこに拠点を定めるかっていうことが大事だと思うんです。宮古は道の駅をとりますと、田老が重点道の駅っていう形になっておりました。ドライバーから見ると、なおかつ営業時間を見ると、果たしてこういうふうな形で本当に道の駅としての役割が期待できるんだろうかっていうのは、私の実際に走ってみての感じている部分であります。今、横、それから縦。つまり盛岡、仙台を考えたときに、宮古の高速道路、準高速道路ですよ。これを利用して、比較的にぎわいの場をつくるということで考えたときに、やっぱり有利なのは本当は松山だろうという話もあったんですが、インターチェンジですよ。今となってもうそれで来てしまっておりますので、ちょっと足を伸ばしてやっぱり藤原ふ頭だろうと。中央インターから入ってもらえばすぐもう藤原に入りますからね。そういうイメージがある中で、今度閉伊川水門にさらに道路載っけてということで事業費も組まれているようですが、ここは観光バスが通れないというふうに聞いておりますよね。であるならば、私が最初に言ったのは、もうちょっとこの宮古港、藤原ふ頭のやっぱり活用のほうが本命だろうっていうのは私の意見であります。これは意見を欲しいということでしたので、意見を述べさせております。もう一つは、何で宮古に若い者が残らないのか。働く場がない。あっても賃金が安い。ここ大事なんです。だから私は、さっき賃金の話が出ました。いわゆるエッセンシャルワーカーの処遇改善ということで言われておりますけども、そこはやっぱりしっかりとこれを見た限りでは、なかなかこうないんですね。働く側の、宮古で頑張って働こうという気持ちが見えるような施策が見えてこない。したがって私は賃金も職員の処遇改善も一分野に限らないで、しっかりと産業立市の中で位置づけていくべきだということが私の意見であります。最後になりますけれども、宮古には大変有望な、それからこの間の産業振興部の取組の成果として、6次産業化の取組、ずっとやってきておりますよね。私はこのリーディング事業所が、チーム漁火のメンバーだと思っているんですよ。イカ王子、今はただのおじさんだって笑わせてますけどもね。至福のタラ王子等々ですね。海外で儲けるっていう戦略を持ってやっているところが正解だと思うんです。中国に輸出してやっぱり順調に伸びている。八幡平市はりんどうをやっぱり外国に輸出をして、それなりにやっぱり成長させてきていると。日本の人口、それから

宮古の人口が減っていく中で、やっぱりネットを使って、そういうふうなところでもしっかり儲けると。そういった意味で鈴木良太さんが代表しております経験もありますので、どんどん6次産業化に加速をして、やっぱり宮古にいながら企業として儲かる仕組みをしっかりと行政も支援するということが必要だということを申し上げて終わります。

○議長（古舘章秀君） 長門孝則君。

○14番（長門孝則君） 私もこの実行計画、田中議員からも出ましたけども、この実行という言葉を入れたっていうのは、私は評価しているんですよ。この計画にはいろいろありますけども、基本計画だとか事業計画あるいは実施計画、実行という言葉を使っているこの計画書っていうのは、私今までちょっと最近では見たことないんですよ。やっぱりこの実行計画って実行を入れたっていうのは、何か特別の思いがあるのかなと。そういう感じもしているんですよ。何でもそうですけれども、いろんな計画をつくるんですけども、もう計画条例になって、実行ということが余りなされてないという、今までの経過があるわけですけども、今回の場合は、どっかに書いてありましたけども、これまでの計画を検証して、どこに問題があるか、課題があるか。それを踏まえて今度の実行計画を具体的に作成したと。何かそういう文言がどっかにあったと思うんですけども、非常に私はこれは力強い計画だなと私は評価しております。ぜひ実行してほしいなと、そういう思いであります。それでちょっと議長2点ぐらいこまいことですけど、ちょっとお聞きしたいんですが。

○議長（古舘章秀君） どうぞ。

○14番（長門孝則君） このカラーのですね、27のコア・プロジェクトっていうところありますがね。この中の工業の（4）に、企業立地推進事業、工業用地の調査、あるいは工業適地の確保っていうのがありますけども、私ぜひ推進してほしいという思いなんですけども、実は現在、工業団地も藤原ふ頭、それから田鎖にも団地があるんですけども、思うように企業立地がなされてないという状況にあります。そういう状況の中で、こういった工業用地の調査、確保ということを推進すると。私はもっと早くすべきだという思いがあるんですけども、なんか立地の目途はもうあるのかどうなのかなと。これからは企業立地、企業誘致に力を入れていくと、そういう考え方なのかどうなのかなというのは、私がこの企業誘致について宮古市はちょっと消極的だなと、そういう思いがあります。もっと積極的にやってほしいと常々そう思っているんですが、ここにこういうふうに工業用地を載せたというのはどういうふうに考えればいいのかと、ちょっとその辺お聞きしたいと思います。

○議長（古舘章秀君） 岩間産業支援センター所長。

○産業支援センター所長（岩間健君） 工業のほうの委員の皆さんともご意見をいただきながら、既存、いわゆる工業団地と呼ばれているところの調査は結構やってきたつもりです。土地所有者も含めて、意向調査とかやってきてはいますけども、そこに限らない市内の用地について、なかなか公共が持っていない土地ですので、やっぱりその所有者の方との意見交換も必要だという部分があるんですが、それを具体的に進めなければならぬということ、担当のほうでも、市内各地いろいろ眺めながら、具体的にやはりそういう話を進めたいなということを見聞交換をしている中で、ここはもうコア・プロジェクトとして記載をさせていただきました。やっぱり工業団地がハードもインフラもしっかりした工業団地を持っているわけではないという中で、民間の皆さんの所有者の方の協力も得なければならないというちょっと特殊事情はあるのですが、やはり調査自体はそこまで踏み込んでいかなければ、企業さんが立地だけじゃなくてやはり増設したいっていう声も既存企業さんの声が結構あるもんですから、それに応えられる規模等々については、やはり地元で協力していただけたところを探りながらという意味でのこの調査適地の確保ということで記載いたしました。

○議長（古舘章秀君） 長門孝則君。

○14番（長門孝則君） すいません、もう一つ。今の件、よろしくお願いします。その下の観光の②、地域観光資源活用事業。この中で浄土ヶ浜を中心とした景勝地の活用と、浄土ヶ浜を中心として、私、意見になりますけれども、重茂半島も付け加えたらいいんでないかなと。例えば、浄土ヶ浜や重茂半島を中心としたというのは、重茂半島も浄土ヶ浜に劣らない景勝地でありますし、本州最東端の地でもあると。それから「喜びも悲しみも幾年月」の映画でも有名で全国的に重茂半島は知られております。しかも新年度予算で月山を1億円かけて整備することに予算が計上されてますが、そんなこんな考えれば、浄土ヶ浜一辺倒でなくて、やはり範囲を広げて滞在型を図っていくと、そういうことが必要でないかなと、そういう思いがありますんで、重茂半島もつけ加えていただいたほうがいいんでないかなと。ぜひこれは検討してほしいという思いなんですけど、どうでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 浄土ヶ浜を中心としたということで、重茂半島が含まれているということで記載していますけども、具体的に重茂半島という名称も加えたいというふうに考えてございます。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○17番（松本尚美君） 今日は説明を受けて、個々に全てやりとりするわけにもいかないとは思いますが、ちょっとはしょってなんですけども、印象的にはそれぞれの産業ビジョンを取り込んでっていうのは理解して、むしろ個々の産業振興ビジョンは要らないんじゃないかって思うぐらいなんですけど、そういった手間暇も含めてエネルギーをつぎ込むのであれば、まさに実行するにはどうするかっていうところに集中してもらったほうがいいんじゃないのかなと。一杯積み上がっていつの間にか次のまた変わっているっていうか、改定とか、改変とか。実際何が出来たんだろうっていうのは、思いがあるんですけども。ちょっと確認なんですけども、ちょっと弱いと思うのは総花的なんですけども、やっぱりこの今のコロナ禍っていうことですから、やっぱりサテライトオフィスとか、リモートとかそういった意味で、やっぱり首都圏から地方に人をどう誘致するか。事業者をどう誘致するか。移動してもらうか、移ってもらうか。そういった部分がやっぱりちょっと弱いなっていうのが印象的です。だから、そこをもう少し掘り下げないといけないのではないかなというのは1点です。それから、今、観光の部分で言ったんですけども、観光は物見遊山だけではなくて、やはりここに教育委員会が何で入ってないのかなと思ったんですけど、やっぱりスポーツコミッションとか、そういった大会誘致とか、そういった部分も必要なんではないのかな。教育委員会を外さないで、教育委員会も入れて、場合によってはプラスアルファでいろんなそういった文化的な大きな集まりがあるとか、そういったもののいわゆる何ていいますか。コンベンションですか。そういった誘致とか、そういったものも必要なんではないかなと。交流という意味では、人口を増やすという意味では、そこがちょっとどこにどう記載されているのかなと。人材育成の部分では、教育の部分では教育委員会のリンクはあるのかもしれない。キャリア教育とか。そういったのはあるかもしれないけれども、そこがちょっとどこなのかなというのを見つけられなかった。あればあったらいいんですけども、そこはもう少し強調したほうがいいのかな、取組としては。それから、それぞれの事業の、これ1回に全部やるとなると、事業費が一体幾らかかるのかっていうのはわからないんですけど、今の総合計画の中で言たって、ほとんどこれ無理だと思います。だからどっかで特化していかなくやなんない。選択と集中という部分ですね。そこはやっぱりどうどこで調整してやっていくのか。もうばらまき型じゃないですけどね、広く浅くやっても私はやっぱり厳しいんじゃないのかなと。そうするとやっぱり選択と集中、それぞれ分野別

でもあっても特化してやらないと駄目なんじゃないかな。だからそういった選択と集中をどの期間でやっていくのか、どういうタイミングでやっていくのか。そこがちょっと見えないっていうことですね。やっぱり財源、それからやっぱりプレーヤーですね。官民連携とか市民連携とか言っているんですが、条例そのものが誰が産業振興、産業立市というか実現させるのか。どなたが主体的にやるかっていうのはなかなか条例上も見えないんですよ。市はもう要は支援するっていう立場。じゃ事業者が、民間事業者が、市内の事業者が、主体的にやれるか。申し訳ないけどもそういった資本も含めて、ノウハウも含めて、とても部分的にはあると思いますよ。製造業の中でもね、これは当然期待すべき。よりこれから成長するというのは、あると思うんですけども、全体的に見て宮古に一体資本があるのかということですね。だからなかなかこれやっぱり金融含めて、どうこの資本を集めるか。市内にないとすれば、外資を入れないと出来ないですね。外資を入れるためにはやっぱりそういった受入れ環境をどうするか。ここに宮古に投資してもいいという動機づけを、やっぱりメリット、デメリットを。デメリットあれば来ないんでしょうけど、メリットをどうするかっていうのも全然見えませんよね。だからそこをやっぱりプレーヤーを含めて、誰がこれをマネジメントして、全体的に引っ張っていくのかはこれ1人で私は無理だと思いますね。片手間でもやれないですね。人事異動もあるしね。市の職員の中にはやっぱりプロパーがいるのか。プロパーが、どこにいるんですかって話。そこをしっかりとある程度やって配置、張りつけないと、これは絵に書いた餅になっちゃう。それが今のところ、今日の時点での意見ですね。

○議長（古舘章秀君） 加藤俊郎君。

○18番（加藤俊郎君） 3年ぐらい前からでしたでしょうかね。当初予算に各分野の水産業、商工、観光あるいは工業等のこういった計画を作りますよっていうことで上げてきたのが、今度のこれが全部まとめたような形での産業立市ビジョン実行計画っていうことを、かなりのボリュームのものを作っていただいて、一つの今後の進めていく指標として作ったということで、そのことは評価したいと思うんです。それで、3年ごとに見直しをするっていうお話がありました。そこで見直しをするっていうことは、どこを見直しをしていくのかっていうことが難しいと思うんです。要するに文章表現だけではなくて、数値化して、しっかり上げて各一つ一つの、個別の水産業だったらサケの回帰率が幾らとか、アワビのあれが幾らとかっていうことではなくて、大きくばふっと、水産業ではこれくらいの生産額を目指しますとかっていう形での数値化した目標を立てて、それに向かって実行計画があるっていうふうに私は考えるんですが、その数値化を示したことによって、3年間のPDCAサイクル回せるというふうに考えております。しかも宮古市ではちゃんと細かい分野での数値を挙げての評価をしていますよね。あれを参考にしながら、あれをまとめた形で、産業の分野に特化した数値を上げて、評価しながらPDCAサイクルを3年ごとに回していただけるっていうことにすれば、わかりやすいのかなと思っております。これをするためには、また作業がかかると思うんですが、しっかりと目標を立てるっていうことが大事だと思いますので、その辺よろしくご勘案くださるようお願いしたいと思います。

○議長（古舘章秀君） そのほかございませんか。なければこの件はこれで終わります。説明員は退室してください。お疲れさまでした。予定しておりました説明を全て終了いたしました。その他に移ります。皆さんから何かございますか。ないようですので、これをもって議員全員協議会を閉会します。お疲れさまでした。

午後5時30分 閉会

○

宮古市議会議長 古 舘 章 秀